

第5学年 図画工作科「彫り進み版画『八ヶ岳の思い出を絵に表そう』」

本单元における学習者用端末の利活用

○手だて→個別最適な学び

- ・彫り進み版画に最適なシンプルな下絵を学習者用端末で描く。
- ・学習者用端末上で完成品の色々な色の組み合わせを試して、自分だけの3色を選ぶ。
- ・途中の第1版と第2版の絵の色も塗り、どこを彫ればいいのか分かりやすくする。【本時】

○使用したアプリやコンテンツ



本時の展開

【ねらい： 学習者用端末を利活用して、形や色の重なりを確かめながら、第1色目と第2色目の予想画を製作し、主題の表し方の見通しをもつ。】

	分	主な学習活動
導入	20	1 課題を知る。 タブレットを使って、下絵に色をつけよう 2 ジャムボードを利用して、下絵に色をつける。 例 白色→水色→緑色→黒色の順番 (1) 下書きをコピーする。 (2) 白色以外の部分を第1色(水色)に塗る。(白色の部分はそのまま) (3) スクリーンショットをする。 (4) 第1色目をコピーする。 (5) 白色と彫って第1色(水色)にしたい部分をそのままにして、それ以外の部分を第2色(緑色)に塗る。 (6) スクリーンショットをする。(第3色目の完成品は前時に作成済み)
展開	15	3 第1色の予想画を見ながら、第1色目の版画を彫って刷る。 (1) 白くなる部分を彫る。 (2) 第1色目の版画を3枚刷る。
まとめ	10	4 活動を終了し、片付ける。 5 次時の活動を知る。

<学習者用端末の利活用>



成果と課題

- ・学習者用端末を利活用して、本当なら見ることができない版画の完成品を作成した。その結果、見通しをもって版画を彫ることができ、児童が失敗せず作品を完成させることができた。
- ・学習者用端末上で自分が納得するオリジナルの色を見付ける活動を取り入れたことで、イメージ通りの作品に仕上がった。